

【民俗】クラシックカメラ

1950年代から1960年代にかけてのカメラです。幕末ぼくまつに日本に伝わってから約100年を経て、ようやくこの頃になると気軽に家族の歩みを写真に残せるようになりました。

機構も多様化し、電子化も進み始めるというこの時期のカメラの進化の足跡をたどることが出来るコレクションです。



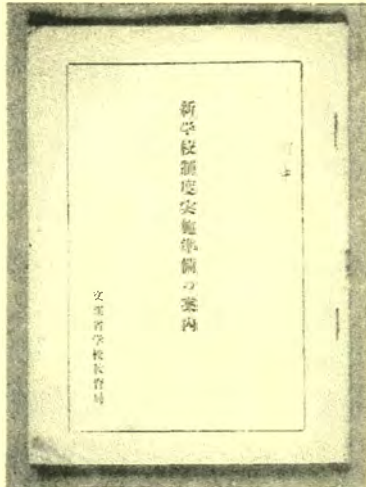
スプリングカメラとフラッシュ

【教育】『新学校制度実施準備の案内』など

教育部門からは、戦後の教育改革に関する資料を紹介します。終戦とともに学校では軍国主義いっそうが一掃され、平和と民主主義を大切に教育がはじまりました。

昭和22(1947)年には、新憲法の理念もとに基づき、教育の機会均等や男女共学などを定めた「教育基本法」が制定されました。学校制度は小学校6年・中学校3年の9年間を義務教育とする、6・3・3・4制に改められ、戦後の新教育はスタートしました。

昭和23(1948)年からは、教育の民主化と地方分権をめざし、教育行政機関として地方公共団体に教育委員会が設置されることになりました。



新学校制度実施準備の案内

展示解説会

4月30日(日) 5月14日(日) 6月11日(日)
各回とも午後1時30分から

主な展示資料

【地学】

ヒメシャコガイ

ナガスクジラ科かがくこつ下顎骨、くじらもくろこつ鯨目肋骨、くじらもくついこつ鯨目椎骨

【植物】

ツクシガヤ、アシカキ、オガルガヤ、ミカワス
ブタ、ヤガミスゲ など

【動物】

オオシャコガイ

【歴史】

にながわりゅうしょうぎくんぜん 蜷川流 将基訓全、しょうぎきぬるい 将基 絹篩、つれづれぐさげんかい 徒然草 諺解
まきのいち 巻之一、ひやくにんいっしゅ 百人一首 和歌解、せきりゅうさんかく 瀬喜理宇佐無賀久、
せきりゅうさんかくきゅうしやうこうもん 関流 算学 九章 好問 など

【民俗】

くろじまつ 黒地松に鶴御所車紋様振袖、べにぞめほうおうじ 紅染鳳凰地模様
ながじゅばん 長襦袢、しょうちくばい 松竹梅 菊貝合せ紋様全通丸帯

スプリングカメラ、にがん 二眼レフカメラ、35mmハーフサイズカメラ、いちがん 一眼レフカメラ など

【教育】

しんきやういくしん 『新教育指針附録マツカーサー司令部発 教育
かんけいしんれい 関係指令』、きやうしやくいんてきかくしんさはんていしよ 教職員適格審査判定書、しんがっこう 『新学校
制度実施準備の案内』 など

2006

新コレクション展

—世界最大の貝から振袖まで—

2006年4月29日(土)~6月25日(日)



黒地松に鶴御所車紋様振袖 (部分)

近年、博物館に収蔵された資料の中から興味深い貴重な資料を展示します。地学・植物・動物・歴史・民俗・教育各部門のバラエティーに富んだ新しいコレクションの数々をご覧ください。

山形県立博物館

展示紹介

【地学】テニアン島産シャコガイ化石

サンゴ礁^{しょうご}に生息するシャコガイの一種、ヒメシャコガイの化石です。産地は西太平洋北マリアナ諸島のテニアン島です。観光地として有名なサイパン島の南約5kmに位置します。テニアン島はサンゴ礁^{しょうご}の隆起^{りゅうき}によってできた島で、化石は島の石灰岩洞窟^{せっかいがんどうくつ}で採集されました。

シャコガイの化石は日本では沖縄島などの南西諸島でも見つかりません。サンゴ礁が発達し陸化していく過程で化石となったものと考えられます。



ヒメシャコガイ

【地学】日本海最上堆産クジラ化石

酒田市の飛鳥沖には、最上堆^{もがみだい}と呼ばれる水深200mほどの浅い地形があります。この最上堆が底引網漁場^{そこびきあみぎょうじょう}として開発されたのが1970年前後のことで、当時海底から礫^{れき}に混じって、いろいろなクジラ化石が引き揚げられました。

その大部分は緻密^{ちみつ}で硬い独特の質感をもっています。頭骨の一部や下顎骨^{かがくこつ}、椎骨^{ついきこつ}、肋骨^{ろっこつ}など様々な部位が産出しています。今回公開するナガスクジラ科下顎骨化石は最上堆産のクジラ化石の中でも最大級の大きさのものです。

【植物】加藤元助コレクションより一押し葉標本一

県内の植物相研究の草分けである加藤元助氏採集の押し葉標本です。昭和43年に山形大学農学部へ寄贈され保管されていましたが、改築に伴う収蔵庫のスペースの縮小により、すべての標本を本館に移すことになりました。平

成13年に移動し、リスト作成、データ化をおこない、新規のラベルを作成して貼り付け、平成17年4月に本館の標本として登録しました。このなかには、同氏がはじめて採集し新種とされたタカユイヌノヒゲやウエツアザミ、山形県から初記録となったツクシガヤなども含まれています。また、山形県の記録として、ほかに確認されていないミカワスプラ、エゾアカバナ、ウラギクなどもあります。

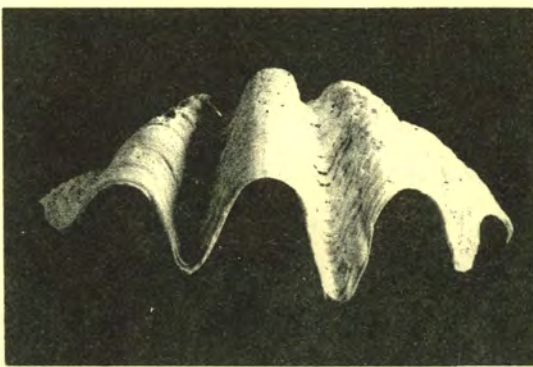


ツクシガヤ

【動物】オオシャコガイ

平成17年に山形県出身で日本貝類学会評議員の加藤繁富氏^{しげとみ}より千数百点もの貝類の標本を寄贈していただきました。今回はこの中から、世界最大の貝といわれるオオシャコガイを紹介します。

オオシャコガイは、成長すると殻^{から}の大きさが1m40cm、重さが320kgにもなります。インド洋や沖縄から北オース



オオシャコガイ

トラリアまでの熱帯の太平洋にいます。水中のプランクトンなどをこしとって食べています。また、貝

殻の外側まではみでた外套膜^{がいとうまく}に藻類^{そうるい}が共生し、これらの藻類が光合成でつくる栄養分も重要な養分となっています。

【歴史】太田家文書より一江戸時代のテキスト

本館に所蔵されている水野家山形藩家臣太田家文書^{もんじょ}の中から、教養や趣味に関する「テキスト」を取りあげます。

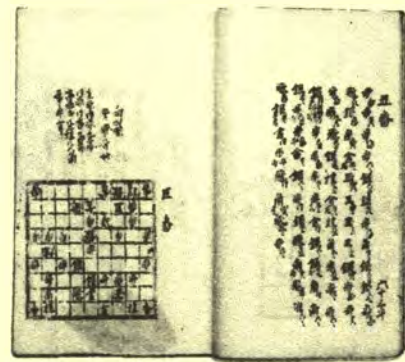
太田家は、山形藩最後の藩主となる水野家の家臣でした。水野家が三河岡崎にいた江戸時代初め頃から仕えていたものと思われ、代々郡方手代^{こおりかたてだい}などの役職を勤めました。

今回とりあげた資料の多くは、天保期頃^{てんぽう}（1830～40年代にかけて）の当主太田犀助^{さいすけ}が筆写したものと考えられます。江戸時代の書物は、版本が出回るだけでなく、筆写されることによっても、広く流布していきました。

江戸時代の武士たちが、このようなテキストを使って日頃どういったことを学んでいたのかを知ることで、当時の武士達の日常生活の一端^{いったん}がうかがえます。

【民俗】昭和10年代の婚礼衣裳

昭和15年の婚礼に際して京都に特に注文して準備された衣裳です。手描き友禅^{てがきゆうぜん}と刺繍^{ししゅう}で黒地に松・鶴^{ごしよぐるま}を鮮やかに表現した振袖、紅染の長襦袢、帯というセットです。昭和15年といえど戦時色が濃くなっていた時代ですが、京都の職人の伝統の技がしっかり表現されていることに驚かされます。



蟻川流将基訓全